

見たことやしたことを、よく思い出して表現できる子どもを育てる

入門期の作文指導

1. 設定理由

人間形成に関わる作文指導
入門期の作文指導の重要性
子どもの実態

2. 研究仮説

- 仮説1 日常的な取り組みや計画的な取り組みを段階的に行い書き方を指導していけば、表現の仕方がわかり、したことや見たことを表現できるようになるだろう。
- 仮説2 相手意識を持たせながら五感を使った表現方法を教えれば、様子が伝わるように、見たことやしたことをよく思い出して書くことができるだろう。

3. 研究内容

(1) 日常的なとりくみ

- ①朝の会でのスピーチ ②日記指導と一枚文集 ③書きたい気持ちを大切に
④相手意識を持って書く ⑤言葉を広げる

(2) 計画的なとりくみ

- ①話したことを文にする ②文の書き方を知る ③見たことやしたことを書く
④友だちの作文のよいところを見つける ⑤五感をつかって書く ⑥推敲のしかたを知る
⑦相手意識を持って書く ⑧気持ちを思い出して書く ⑨会話文の書き方を知る

4. 結論

- (1) 日常的な指導や段階的な指導を行ったことにより、文字を書くことが苦手な子どもや何を書いてよいかわからなかった子どもも、無理なく題材を探して書くことができるようになった。
- (2) 五感を使った表現方法を教えることで、子どもたちは、相手に伝わるようにいろいろな表現の方法で詳しく書こうとするようになった。